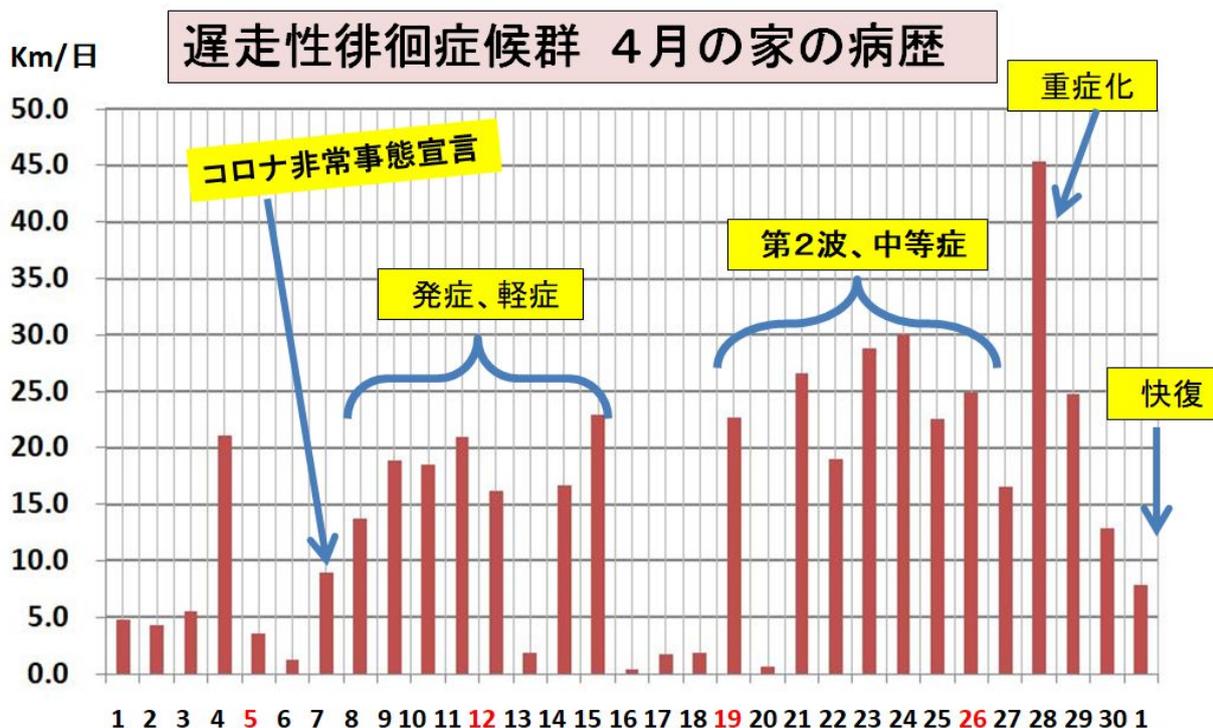


遅走性徘徊症候群

自虐性癖のある高齢男性に散見されるビョーキ。病態は、平熱だが発汗による脱水を起こしやすく、下肢の倦怠感、筋肉痛、まれには麻痺を伴うのが特徴。速走性と違い、遅走性では呼吸器障害は伴わない。統計的に雨天の日には発症しないことが知られている。

筆者は還暦以後、不定期に何度か罹患した。昨年は4月に利根川上流にて発症し毎週末ごとに発作が起き、利根川河口まで7週間症状が続いたが、梅雨入り前によく完治した。今年はコロナウィルス緊急事態宣言が発令された4月7日の翌日から発症。昨年とは異なり、軽症ながらほぼ連日発症した。16日には治まったかに見えたが、19日ごろから中等症に進行した第2波に見舞われた。感染地域は杉並区を中心としたほぼ半径10kmの円内地域に集中。27日には路上の段差に躓き転倒し、膝を派手に擦りむいた上、スマホのガラス体を複雑骨折した。さらに翌28日には多摩市にまで飛び火して病状が一気に重篤化し、一時は容態が案じられた。

幸い、その後急速に病状は沈静化し、5月1日以降は感染拡大もなく症候群症状は収束した様子である。ちなみに4月の病理検査結果を総計すると、61万404歩、約458km、時速7km程度となった。20200502





シンドローム発症中の病態



複雑骨折したスマホのガラス体